

16 住宅の高気密化・高断熱化

指針
No.35

高気密・高断熱住宅の注意点

気密・断熱の性能の高い住宅に住む場合は、より一層、換気に注意しましょう。

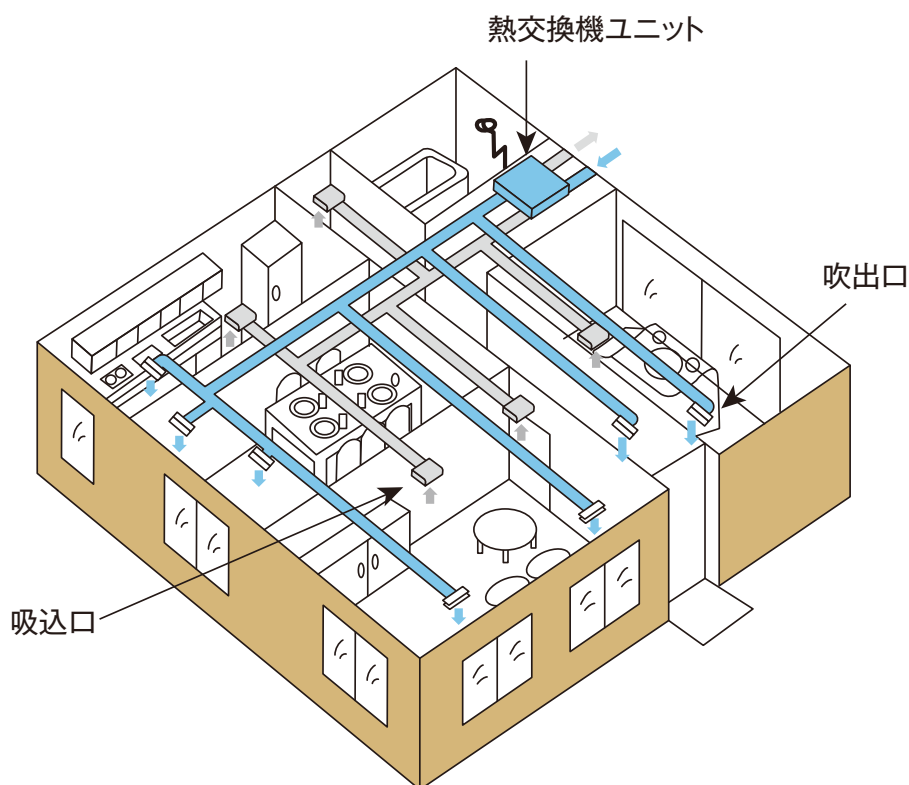
住宅における省エネルギー化は、単なる経済コストの面からの評価ばかりでなく、地球環境の面からも重要です。効率良く冷暖房を行い、エネルギー消費を抑えるためには、住宅の高気密・高断熱化が求められます。

住宅の高気密化・高断熱化

高気密住宅とは、「隙間」を極めて少なくした住宅です。室内の空気を出さず、外の空気を入れないようにすることによって、暖房や冷房の効率を高めています。しかしながら、気密化を行うことによって、自然換気量が大幅に少なくなり、室内で発生した汚染物質が外部に排出されにくくなります。そのため、現在の住宅では、建築基準法により24時間換気を行うことが義務付けられており、最低0.5回/hの換気ができる設備が備わっています。

高断熱住宅とは、外壁や床などに性能の高い断熱材を充てんした住宅です。熱が外に逃げないようにすることによって、暖房や冷房の効率を高めています。断熱だけでなく、同時に防湿や気密化も行われることが一般的であり、換気に加えて冬場の乾燥などにも気を付ける必要があります。

〔高気密・高断熱住宅におけるセントラル方式の機械換気設備例〕



チェックポイント
35-1

住宅の気密性にあった換気設備等を設置して、適切に運転・管理していますか。

住宅の気密性や換気の方法には施工方法等によりかなりの差があります。自分の家がどのような換気方法を採用しているのかを確認しておくことが大切です。住宅メーカーでは、住まい方マニュアルを作成していますので、換気設備の運転方法等について理解し、適切に管理しましょう。



24時間換気設備の管理

- ・24時間換気設備は、手動で電源を切ったりせず、常時運転するようにしましょう。
 - ・換気口（給気口や排気口）はふさがないようにしましょう。
 - ・給気口には細かい金網やフィルターが一般的に用いられていますが、それらが詰まると換気のパフォーマンスが悪くなります。24時間換気設備の給気口は常に外の空気を吸い込んでいますので、フィルターが非常に汚れやすいのが特徴です。取扱説明書に記載された方法で、定期的に清掃・交換を行きましょう。
- ※春や秋などの中間期には、窓開けによる通風換気を行きましょう。

24時間換気設備が設置されていない場合

指針1を参考に、窓を開けたり換気扇を用いたりして、積極的に換気をするよう心掛けましょう。また、リフォームにより高気密・高断熱化を行う場合には、併せて24時間換気設備を設置するようにしましょう。

指針No.1参照

[天井吸込み口の清掃例]

- ① 吸込み口グリル及び自然給気口のフィルターにたまったホコリを掃除機で吸い取りましょう。
- ② 吸込み口グリル及び自然給気口は台所洗剤を浸した布で汚れを拭き取った後、乾拭きをしましょう。



[エアフィルターの清掃例]

- ① 電源スイッチを「切」にします。
- ② エアフィルターを取り出します。
- ③ 軽く手でたたか、または掃除機でほこりを吸い取りましょう。



チェックポイント
35-2

開放型暖房器具を使用していませんか。また、ダニ、カビの発生の原因となる水蒸気の発生を少なくするように注意していますか。

高気密・高断熱住宅では、適切な換気が確保されない場合、特に梅雨時や夏場は水蒸気が室内に留まって湿度が高くなり、ダニ、カビ、結露が発生する原因となります。また、二酸化炭素等の汚染物質の濃度も上昇するので、次のことを厳守しましょう。

- ① 開放型ストーブは水蒸気を発生させるだけでなく、室内の空気を汚染するので、なるべく使用しないようにしましょう。
- ② 洗濯物等は室内に干さず、屋外に干すか、排気装置付きの乾燥設備等を使用して乾燥させましょう。
- ③ 浴室や台所などの専用の換気扇は取扱説明書をよく読み、理解して正しく使用しましょう。
- ④ 植物や水槽は、室内に数多く置かないようにしましょう。

